

第33号

発行
北九州地区
信徒使徒職協議会
会長 追立 泰治
編集
北九州信徒協広報部
担当司祭 山元 眞
担当委員 岩本光弘

カトリック
北九州地区
信徒協だより
News Bulletin for Catholic Believers' Association in Kita-Kyushu Area

主な内容

- 1面 懇談会報告
- 2面 年末街頭募金
- 3面 教会と社会問題
中村神父
- 4面 English Column
- 5面 司祭紹介・教区信徒協のいま
共同回心式
- 6面 谷司教の講演
ニュースあれこれ

第10回 司祭と信徒の懇談会

1月13日(日)小倉教会

原発廃止の司教団メッセージから学ぶ

テーマ「司教団メッセージを共有し、キリスト者の生き方を分かち合う」をもとに、10回目となる司祭と信徒の意見交換(懇談会)が開かれました。4名の司祭を含む38名が集い、現実の問題にキリスト者としてどう取り組むのかなど熱い討論が交わされました。

司会／昨年の教区信徒協の研修会で話し合いをしたことがとても良かったという感想があり北九州地区でもこの研修会の内容に従って話し合いをすることにしました。

最初に司教団メッセージを読んで確認します。(朗読)

信徒／今までこの問題について誰も言わなかった。福島の問題が出なかつたら日本はそのまま原発を推進していくことになったのではないか。教会はこれまで全く反対してこなかったが、今の事態になつて反対と言うのは唐突ではないか。

信徒／夏にこのメッセージを読んだ時にあまり深く考えなかった。しかし、司教団が反

対したメッセージを出したのであれば、従わないといけないのではないか。

信徒／福島で事故が起こらなかったら何にも知らなかった。司教団がこのように言ってくれ、わたしたちが知ったからにはカトリック教会として問題にしないといけないと思いましたが。司教団が言ってくれたことは良かったと思う。

信徒／廃棄物の処理がはっきりしていないことを知って、国民の一人としてはつきりしないといけないと思う。

信徒／カトリック教会は過去に言わなかったことが問題ではなく、危険であることを司教団が反省して出していることが大切だと思う。

信徒／原発が良いという人はいないであろうが、そのために何をすべきかと言うことは考えないといけない。司教団メッセージには具体的に何をすべきかと言うことは書かれていない。私たちは何ができるかと言うことは自分たちが考えていくことではないかと思う。実際にやっていく過程で重みを感じます。

信徒／原子力が危険と言うことを理解していなかったことは反省しないといけないと思う。

信徒／一部の人の原発による犠牲によって、多くの人の生活が守られていくことは見直さないといけない。

司会／エネルギーの問題だけではなく宗教者としてどう見るのか。

司祭／私たちは詳しい技術についての知識がないので判断できないが、キリスト者として発言をして、イエスが身を

もって示したことから判断して行動していくことだと思う。私たちはキリスト者として判断をする。小さい人をどのように守るのか。

司祭／廃棄物をどうするのか。廃棄物を埋めた上で生活するのか、など問題になることは以前からあった。

信徒／教会も電気を使うことが普通になってきている。メッセージは非常に短絡的である。節電したから乗り越えられたのではないかとあるが、節電のために犠牲になった産業の人もいるのではないか。社会の現実にはマッチしていないのではないかと思えます。みんな働いて収入を得ている。このような社会の現状をもっと見

(二面へ続く)

さよなら原発 3・10北九州集会 ご案内

日時: 3月10日(日)10時~15時
場所: 勝山公園(小倉北区)

さよなら原発に沿った出店等があります。「いますぐ原発の廃止を」のカトリック教会の旗印のもとに市民集会に参加しませんか。

て発言しないと、メッセージの内容に矛盾を感じる。
信徒／次の大地震で大きな事故になると言われているのに、そのまま再稼働や新規に原発を造り、廃棄物を積み上げていくことは、将来に禍根を残すことになると思うので反対していきたい。

信徒／原発に賛成をしているのではないが、廃棄物の処理についてや、これからのことにもっと広い視野で判断すべきではないかと思う。

信徒／原発の電力を使用するために犠牲になった労働者がいること、理解する必要がある。教会はあまりにも社会問題について関心が無いし、社会問題が教会の中で取り込まれてこなかった。

信徒／研修会に参加して帰った人から、これから自分たちも何かしないといけないという話は聞いたが、具体的に何をすべきかというところは難しい。自分の生活を見直さないといけないとは思っている。
信徒／司教団メッセージを読んで、今まで信者としてどのような態度をとれば良いのかと迷っていたが、これでカト

リック教会の信者として、どうすればよいのかというお墨付きをいただいたと思つた。
司祭／現代社会憲章に書かれたことが信者としての姿勢の原点です。これには教会として社会の見方について書かれている。今ままであまり言われてなかつたのが、福音が読み込まれていくうちに、これらのことは福音に示されている神の望みであることを示している。

信徒／社会問題について教会の中で取り上げることが少ない。
信徒／信徒協が社会問題について取り上げていけば、皆さんも参加してくると思う。

信徒／私たちは知らないことが多すぎると思う。以前に現実の問題を聞くことがあった、この時に私たちは原発で働く労働者の犠牲の上で便利な生活をしていることを知らされた。悪いことは隠されてから行動しないといけないと思う。

司祭／教会は社会問題についてたくさん文書を出している。それをみんな知らない。今は

教会の問題ではなく、自身自身の問題である。みんな目覚めて知るようになりましょう。
司祭／メッセージは突っ込みが足りないという意見がありました。教会は倫理と良心に訴えることが使命である。みなさんがこのメッセージを受けて考えて動いてほしい。

◆ ◆ ◆
【意見交換を振り返って】
 今回の特徴は、初めて具体的な社会問題について司祭と信徒が語り合った懇談会だった。また、信徒間でも、その立ち位置の違いから司教団メッセージに対して様々な異見が出されたことも新鮮な思いがした。日本カトリック司教団が、教会と社会の遊離を反省しておよそ30年経った。この間、司教団は社会問題について様々な文書を発表し警笛を鳴らしてきた。しかし私たちはそれを真摯に学ぶ努力をしてきただろうか。昨年「なぜ教会は社会問題にかかわるのか」の冊子が出版された。一人でも多くの信徒がこれを学ぶことで、社会に派遣されている使命に気づくチャンスになればと思う。(編集部)

北九州13教会
総計
1,279,968円

2012年
年末街頭募金
有難うございました

街頭募金をされた教会や有志の会からコメントが寄せられました。
【門司】 30分位でも、立ち寄ってお手伝いして下さったり、募金箱を用意して下さいたり、去年より多くの方が参加して下さいました。
【小倉】 教区青年の集まりがあり、その青年たちも一緒にがんばってくれました。子どもたち、若者たちのパワーはすごい。
【新田原】 大変寒い中、子どもたちがほんとうによく頑張りました。

主な送金先

- ・カリタスジャパン(大槌ベース)
- ・東日本大震災(CTIC) 教区災害支援室)
- ・ミンダナオ子ども図書館
- ・東チモール(聖母訪問会)
- ・ホームレス支援機構
- ・北九州いのちの電話
- ・聖マルティンの家
- ・聖ヨゼフ寮
- ・社会福祉協議会
- ・障がい者施設エルピス
- ・人権オンブズ福岡
- その他

教会と社会問題について

戸畑教会主任司祭 中村 彰神父

2011年3月に東日本大震災が起こり、原子力発電の安全神話が崩れました。これを受けて日本のカトリック司教団は2011年11月に「いまずぐ原発の廃止を」福島第1原発事故という悲劇的な災害を前にして「というメッセージを「司祭、修道者、信徒の皆様」宛てではなく、「日本に住むすべての皆様」宛てで発表しました。北九州信徒協でも昨年の平和の集いで広島教区から前田司教様をお招きして司教団メッセージを解説していただきました。これまで原発については正義と平和協議会の一部署でその問題を指摘してきましたが、日本のカトリック司教様達が一致団結して原発の廃止を呼び掛けるメッセージを出したことは驚きでした。司教様達の中にはい

ろんな考えの方々がおられます。一人でも反対すれば司教団メッセージにならず、各部署からのメッセージになりません。例えば、正義と平和協議会、社会司教委員会といったものです。

このメッセージを受けてカトリック教会が社会問題について発言することに違和感を感じた方々もおられると思います。そこで2012年2月に日本カトリック司教協議会社会司教委員会編で「なぜ教会は社会問題にかかわるのかQ&A」といった冊子がカトリック中央協議会から発行されました。テキストを読んでもらえば十分なのですが、なぜ教会は社会問題に関わるのか、これから私なりの考えを述べさせてもらいます。

まず、聖書から考えてみます。旧約聖書で預言者は権力者や社会の不正を糾弾し、正

義と恵みの業を行うよう指摘しています。預言者は権力者や民衆から迫害されても神のメッセージを発信し続けました。キリスト者は洗礼を受けることによって、預言職・王職・祭司職の使命を受けます。神の似姿として作られ、神に愛されている人間の権利が不当に圧迫されているなら、それは神のみ心ではないと発言する使命があります。

新約聖書でイエス・キリストは神の国の到来を宣言され、福音宣教をされました。社会から差別されていた徴税人や売春婦を仲間とされ、汚れた霊を追い出され、病気の人を癒し、異邦人、サマリヤ人とも交流されました。神の恵みの流れを切ろうとしたユダヤ教の指導者を厳しく批判されました。キリストも預言者と同じく権力者から迫害され殺されましたが、神はキリストを復活させることによって救いの業を完成されました。

キリストは故郷ナザレで「預言者は自分の故郷では歓迎されないものだ」と言われ

ましたがこれには深い意味があると思います。故郷とはナザレでもあるし、ユダヤでもあるし、この世界でもありません。預言者は故郷の都合を優先せず、神のみ心を優先します。弱さに打ちひしがれているときには深い憐れみをもつて励まし、傲り高ぶって人を圧迫しているときには義をもつて批判します。キリスト者の生き方の原点はいつもイエス・キリストにあります。

けれどもカトリック教会が社会教説を出したのは、1891年のレオ13世の回勅「レールム・ノヴァールム（労働者の境遇）」が初めてでした。1848年の「共産党宣言」

に遅れること43年です。なんとも息の長いことかと驚きますが、これがカトリック教会の姿でもあります。第2バチカン公会議（1962年）が終わってからやとカトリック以外のキリスト教、他の宗教と対立から対話の姿勢に変わりましたし、2000年にようやく教皇様が過去のカトリック教会の過ちを謝罪されました。

少し論点がずれましたが、教会の社会教説、メッセージを学ぶことは信者の務めでもあります。自分の良心に照らし合わせながら具体的な行動に移していけたらと思います。

日本カトリック司教協議会 社会司教委員会 編

なぜ教会は社会問題にかかわるのか

Q&A

教会がすべきこと？ 教会に許されること？

なぜ教会が世俗の問題について発言するのか？

その根拠と基準は何か？ 信仰とどう関係しているのか？

信徒が抱く「なぜ」に答えるQ&A

Seminar of Nagasaki Great Diocese 2012

In the disaster of East Japan earthquake, a lot of people of foreign nationality were stricken. In spite of such the unfortune, these people tried to revive the stricken area, together with Japanese in the area. In this time, a leader who helps on revival, is invited, then we will listen the present condition and revival action by foreign people.

Please attend a meeting as follow:

- Date: 2013, March 10th(Mon) 14:00 — 15:30
- Place: Daimyou Catholic church, 1F lecture room
- Free fee
- Reporters from Tohoku Area:

Preast. Antonius Harnoko

(Support center for foreigner, in Sendai Diocese)

Marife Sugawara,

(Leader of Filipine community, in Ofunato)

2012年度 長崎教会管区セミナー

被災地の現状と復興に向けた歩みの話

主催 日本カトリック難民移住移動者委員会

東日本大震災では外国籍の人たちもたくさん被災されましたが、この人たちは被災後、地域の人たちと一緒に復興に努力してきました。今回は、東北地方からリーダーが福岡へ来て、現地の現状と震災からの復興活動をしている人たちの報告をすることになりました。下記の通りの予定で現地の人の話を聞く集まりをしますので参加してください。

* 期日と時間……2013年3月10日(日) 14時～15時30分
(16時より英語ミサがあります)

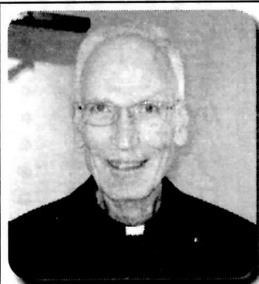
* 場 所……カトリック大名町教会 一階講堂

* 参加費用……無料です

* 東北から来て話をされる人

アントニウス・ハルノコー神父 (仙台教区対日外国人支援センター)

菅原マリフエさん (大船渡教会のフィリピン人共同体リーダー)



司祭紹介

若松教会

マヘル神父 74歳

アメリカ シカゴ出身

『司祭談』 昨年8月に宮原司教様に、二つの小教区で手助けするよう依頼されました。1ヵ月間、司祭が休暇を取っていた間の黒崎教会で過ごし、今は戸畑教会の主任司祭中村神父様が担当する若松教会にいます。1962年オブレト会の神学生として日本に来ました。今までに主に四国の教会で働きました。高知県の中村教会17年、徳島教会2回赴任し17年。神学校を出て最初の1年間、福岡教区の光丘教会にいました。2003年から6年間古賀教会の主任司祭を致しました。北九州市で働くのは初めてです。これは、大変興味深い経験です。3月に私は75歳になるので、退職という言葉は耳に心地良く感じますが、その言葉が私の修道院長の辞書にあるかは、定かではありません。若松教会は今年の復活祭までの予定です。その後のことは決まっています。もうすぐ何か決まるでしょう。今からよい四旬節と復活祭に向いましょう。皆さん大きな恵みをいただくようにお祈りします。

『信徒談』 クリント・イーストウッドとチャールストン・ヘストンをたして2で割ったようなルックスです。ユーモアのセンスがたっぷり、純粹で気軽に家庭訪問をしてください。お話好きの愛嬌ある神父様です。司祭不在からマヘル神父様がこれ教会も明るくなりました。

朝ミサでの少人数でも答唱詩編とアレルヤ唱は歌います。身体中から宣教師そのもののオーラが発散されています。気さくで誰にでも声を掛けて下さる神父様です。

司祭として、二つ目の研修会に向けての取組みについてです。これまで研修会として取組んでいます。2009年は「教会に明日はあるか」のテーマでした。翌年も同一テーマで、青年の声、外国籍信徒への対応、小教区での宣教予算、ナイス（第1回福音宣推進教全国会議）について分かち合われました。その中からナイスをもっと知りたいとの声があり2011年には森司教を招きました。その時に、信仰を捉え教義中心から喜びをもって生きることを学び、教会と社会の遊離をどう克服していくかの課題が浮かびあがりました。2012年「いますぐ原発の廃止を」の司教団メッセージを受け、初めて社会問題に焦点をあてた研修を行いました。そこで出された多くの意見、感想をもとに13年度の研修会を取組もうとしています。

研修会を取組もうとしています。

研修会を取組もうとしています。

研修会を取組もうとしています。

研修会を取組もうとしています。

研修会を取組もうとしています。

四旬節共同回心式日程

日付	教会名	時間
2月27日(水)	若松	19:30のみ
3月2・3日	門司	2日(土) 17:30
		3日(日) 10:30
3月2日(土)	田川	10:00のみ
3月3日(日)	水巻	11:30のみ
3月5日(火)	戸畑	10:30, 19:30
3月6日(水)	湯川	10:30, 19:30

日付	教会名	時間
3月8日(金)	直方	14:00, 19:00
3月11日(月)	新田原	10:00, 19:00
3月12日(火)	行橋	11:00, 19:30
3月13日(水)	豊津	19:30のみ
3月17日(日)	飯塚	12:00のみ
3月22日(金)	小倉	11:00, 19:30

福岡教区信徒協のこれから...

福岡教区信徒協は、福岡地区、佐賀地区、熊本地区、北九州地区信徒協と修女連、CLC、地区女性の会、正平協、難民移住移動者宣教のあり方を考える会などの代表者と担当司祭によって使徒職活動を協議しています。数回にわたる会議から、教区信徒協のこれらを垣間見ることができました。一つは、今後の活動についてです。今年4月から熊本地区信徒協は宣教司牧評議会として、また福岡地区信徒協から分離して新しく筑後地区信徒協が歩み始めることとす。議論のひとつは、信徒使徒職としての働きの分野と宣教司牧評議会が目指す方向性についてや、宣教司牧評議会に移行する場合の会則変更などの課題があるようです。そして信徒協の活動等が地域によって温度差があることも多様な議論の背景にあります。教区信徒協では、丁寧な協議を重ねて、信徒使徒職活動のあるべき方向を模索しようという熱意が感じられました。

二つ目は、2013年度の研修会に向けての取組みについてです。これまでの流れをまとめます。教区信徒協は連続性のある研修会として取組んでいます。2009年は「教会に明日はあるか」のテーマでした。翌年も同一テーマで、青年の声、外国籍信徒への対応、小教区での宣教予算、ナイス（第1回福音宣推進教全国会議）について分かち合われました。その中からナイスをもっと知りたいとの声があり2011年には森司教を招きました。その時に、信仰を捉え教義中心から喜びをもって生きることを学び、教会と社会の遊離をどう克服していくかの課題が浮かびあがりました。2012年「いますぐ原発の廃止を」の司教団メッセージを受け、初めて社会問題に焦点をあてた研修を行いました。そこで出された多くの意見、感想をもとに13年度の研修会を取組もうとしています。

望に耳を傾け実りある研修会へとつなげていくとする代表者たちの後ろ姿が見えてきました。

谷司教が日本キリスト教団で語る

今なぜ信教の自由か

2月11日は「建国記念の日」です。わたしたちはこの日をどのように受けとめているでしょうか。プロテスタント教会では毎年、信教の自由について考える集いが開かれています。今回、日本キリスト教

「迫害」と聞けば多くの方が、豊臣、徳川時代のキリシタン弾圧と幕末から明治初期の浦上四番崩れ等に代表される殉難を思い起こすでしょう。しかし近代になっての鹿児島県奄美大島におけるカトリック教会排撃についてはあまり知らないのではないのでしょうか。

参加者の感想

このようなお話を聞けたこともよかったです。カトリックの方々が、日本キリスト教団の教会で一同に会したことは、とっても意義あることだと感

団などが主催し「今なぜ信教の自由か」と題して、カトリックさいたま教区の谷大二司教を招いての講演が、小倉東篠崎教会で開かれました。歴史に学び、現代に大切なものを気づかせてくれました。

谷司教は、冒頭で尖閣諸島での中国艦艇によるレーダー照射問題を防衛省が発表したことで、その独走を懸念しました。また安倍首相が「強い国日本」を作るためにそのイメージを抱いていることに触れながら、戦前の日本が学校を国家神道の場としたことなどを話し、奄美の出来事とつなげていきました。

奄美大島では昭和8年頃からカトリック信者への弾圧や脅迫が起こり始めました。またカトリック女学校が廃校に追い込まれたり、教会が役場とされたり、3千人以上が転向届けに署名させられたりしたそうです。なぜそうなったのかについて、フアシズムの研究をされた須崎慎一教授の言葉を引用しました。軍部の要塞基地があったこと、外国人宣教師が多かったこと、多くの信者がいたこと、そして小さな孤島であったことなどが理由としてあげられました。奄美大島に軍部が独走する中で、カトリック教会も神社参拝を容認し、ついに戦争協力へと向かいました。信仰ある

なしに関わらず国民や植民地となった地域では、信教の自由が奪われてしましました。このような背景から、戦後の日本国憲法によって政教分離が定められたとのことです。そして、信教の自由に関する裁判で「今日の滴る細流がたちまち荒れ狂う激流となる」と意見した判事の言葉を紹介し、現在の危険な状況に対し教会が預言者としての役割のあることを話されました。

ニュースあれこれ

110人が参加した東篠崎教会



◆直方教会が新しくなります
教区報でもお知らせがありました。数年前から直方教会で準備されてきた教会の新築移転が完了しました。新しい教会の建設も進んでいて、直方教会に問い合わせたところ5月中には完了しそうです。詳しい日程はまだ発表できないというのですが、近日中に皆さんの教会に、お知らせが届くと思います。

*神学生の司牧実習が一月で終わりました。最近の神学生は社会生活経験者が多く、子どもたちの良いリーダーになつてくれました。彼ら全員が叙階してくれたらと願わずにいられません。
*北九州地区は、車で回っても半日以上かかるほど広範囲なので小教区相互の情報にはなかなか伝わりません。広報部会では、北九州地区内の状況や共通の課題などの情報を共有するような企画を考えています。取材に行くことになりましたら、ご協力をお願いします。
*私たちは、キリスト教とは無縁の社会でどう生きていくのか、どう考えたら良いかを学ぶ必要があります。イエス様が福音宣教の最初に、苦しんでいる人たちがや罪人と言われている人たちのところに行かれたように、私たちも社会の中で信仰を示していきけるようにするために、司教団が出している文書や本をもっと読んではどうでしょうか。
(岩本)